修羅が呼ぶ

繁泉祐幸

賢治さぁ…
と幾億光年の遠くから声がする
賢治さぁ…
と幾億年の時間を経て声がする
賢治さぁ…
と記憶となる以前の奥底から修羅が呼ぶ
そして賢治さぁは
今もたくさんの物語を書いている
（鉱物たちも草木たちも
動物たちも星たちも
生けるものたちすべてが
語りかける心象のすべてを）

修羅はひとりぼっちの言葉を産み続け
賢治さぁは自分だけの地層を重ね続け
有機交流電燈につながれたそれらは
確かに今もせわしなく
（ぺかぺかと）
明滅を繰り返していて
ほぉら光でできたパイプオルガン

賢治さぁ…
と修羅が呼ぶ
虚空をつかむように声を出す
歯ぎしりをするように絞り出す
何本もの腕を広げるようにもがき
そしていつしか
また十億年の眠りにつく